
ちょっとした冒険～組織のアジトへ

angel

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ちよつとした冒険〜組織のアジトへ

【Nコード】

N5941G

【作者名】

angel

【あらすじ】

平次はかつて黒の組織と会っていた！？それは中2の時、和葉とある約束から始まっていた。その時の和葉との約束とは？これはまた会える日までのおまけ・・・ですかね？平次×和葉です。平和なので、このカップルが好きな方はどうぞ読んでみてください。

file 1：いざ東京へ！

今日は中2の一学期終業式。教室もざわざわして、今成績を配っているのが感じられた。

配られたあと一気に不機嫌になった和葉と違い、平次は嬉しそうだった。和葉は隣の席に座っている平次に小さな声で話しかけた。

「平次。何がそんなに嬉しいん？」

平次はハイテンションで言った。

「明日から休みやで！みんなテンション高いはずや！もしかして和葉成績悪かったんか？」

和葉はそれを言われた瞬間、手が出ていた。平次はグーにした手を上手く止めるとニヤリとして言った。

「凶星なんやな！ちよつと見せてみい！」

そういつて隙だらけの和葉から上手く成績表を奪うとそれを眺めた。

「和葉、そんな悪うないやん。何が嫌なんや？」

平次は自分の成績を隣に置いて言った。

「ほら、数学と英語以外は同じやんか」

それを聞いていた周りの人から驚嘆の声が漏れた。それもそのはず。平次は期末が学年トップだったからだ。

周りは疑問だったようだが、和葉の顔を赤らめながらの発言に周りの人も納得した。

「だって・・・新学期始まった時言ったやん！平次に勝てれば一緒に東京に連れてってくれるって！うち、頑張ったのに・・・」

周りにいた、女子生徒は達は言った。

「服部とのデートかあ。無くなったんは辛いなあ」

それを聞いた和葉は即立つと言った。

「デートちゃう！旅行や！」

そう言ったが、その集団はすでに平次に話しかけていた。

「だからー、和葉と行ってあげてや。服部やって行きたいんじゃないん？」

その話にも男子生徒も割り込んできた。

「あ、俺知ってんで！平次行きたい言うてたもんな」

「はあ？俺が？有り得へん」

平次は即否定した。しかし、その男子生徒は続けた。

「言うてたで！部活終わって話しかけようと思った時、呟いたわ。和葉と旅行行きたいなあ、って」

平次はゆっくり、しかしはっきりと言った。

「和葉、あんなに楽しみにしてんねんで？俺はああいう和葉見てるとなんか嬉しいんや。だからやないか？」

周りからは大きな歓声が飛んだ。先生も、怒らずその姿を眺めていた。

その中で和葉は半泣きになっていた。

「みんな言うてくれるんはいんやけど約束は約束やからな。うち、もうええ。次頑張つて平次抜いたら行くわ」

和葉は残念そうに言った。平次はその言葉を聞いて、首を傾げた。

「和葉、勘違いしとるんやないか？俺は別に東京連れていかんとは言うてへんで。俺ら、元々言うてたやん、旅行行くつてな。で、和葉が勝てたら行きたい所連れてつたるつて言うたんやで？」

和葉はそれを聞いて、半泣きから笑顔へ変わった。

先程の女子生徒が和葉の肩を叩き言った。

「良かったやん、和葉。これで服部とデート行けるな」

和葉はよほど嬉しかったのか、“デート”と言う言葉に気づかず頷いていた。それを聞いたはずの平次も突っ込んで来なかった。

夏休みに入って約半分たった雲ひとつない青空の日、平次は和葉の家の前に行った。

「和葉、用意出来たか？バスあと10分で来てまうで！このままじや間に合わへん！」

そう言った時、和葉が出て来た。

「ゴメン。用意意外と時間かかってしもて」

平次はニカツと笑うと言った。

「じゃ、行こか！東京へ！！」

そう言うと同時に平次と和葉はバス停に向かって走り出した。

file1:いざ東京へ！（後書き）

また会える日までの補足話です。

今回は和葉×平次の組み合わせ・・・

普段とはちょっと違った話になるんじゃないでしょうか・・・

良かったら評価とくださいね

では^^^

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5941g/>

ちょっとした冒険～組織のアジトへ

2010年10月9日02時15分発行